

水戸地区生徒図書委員 研修会報告

先日、9月9日、水戸女子高等学校において、水戸地区生徒図書委員研修会が実施されました。

午前の部では、水戸英宏小学校教頭・田中拓也先生による「短歌との出会い〜一冊で変わる人生」が講演されました。

まず始めに、長田弘著『世界は一冊の本』という詩集より「世界は一冊の本」という詩の一部を朗読していただきました。

「人生という本を、人は胸に抱いている。」

「一個の人生は一冊の本なのだ。」という書き出しから始まり、9行の詩からあふれ出す詩の原点と、先生の今までの生活の中で出会った短歌や詩集の話を聞かせていただきました。

また、先生は短歌甲子園の審査員でもあることから、今回参加した図書委員の生徒達に対して、短歌甲子園2013に出品された短歌のどちらが勝ち進んだかを当てるゲームをしました。たった一言の題目から様々な短歌を生み出した選手の感性の素晴らしさと、どちらの短歌が優れているかを決める審査員の

方々大変さを感じることができました。今の近代化された時代でも、このような感性をもっている選手を見習いたいと思います。

午後の部において、私たち二人は夏川草介著「神様のカルテ」の読書会に参加しました。読書会は課題の本を読んでおき、決められた論点について話し合う会です。今回は司会進行の水戸第一高校の生徒を中心に、共感できる人物はだれか、治

る見込みのない患者への延命治療についてどう考えるか、この作品に出てくる夫婦のあり方についてどう思うか、の3つを共通論点に様々な話し合いを行いました。特に印象に残ったのは、延命治療についての話し合いで、延命治療に賛成、反対それぞれの意見があり、約半数ずつに分かれたことに驚きました。

私は「治療費や本人の苦しみ」という点から反対に一票入れましたが、賛成の方の「医者の仕事は患者を生かすことである」という意見に、更に深く考える機会を得ることができました。

今回の地区研修では、自分とは異なる考えや、自分にはない感性に触

れることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。また、分科会報告において、他校の生徒を見ると皆充実した表情だったので、参加した全員が何かを感じ、得るものがあつたのではないかと思います。12月10日に実施される中央研修会では、分科会の担当として読書会を行うので、今回の研修会を参考に楽しく参加できるように努力していきたいです。

二年一組 君嶋 直也

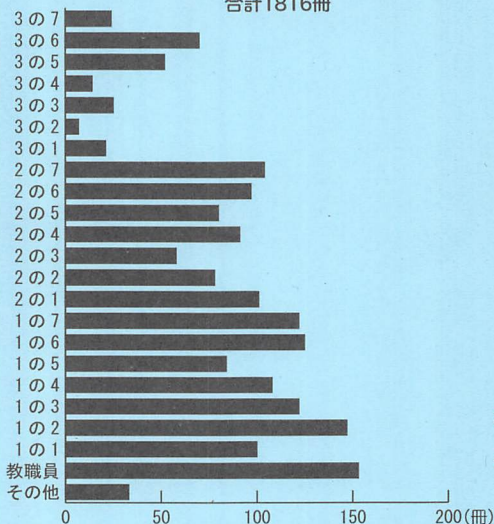
編集後記

今回の図書館報は、ミステリー特集ということで東野圭吾さんと米澤穂信さんの作品を紹介させていただきました。

ミステリーと言いますと殺人事件が真っ先に浮かんできますが、そればかりではないので、勉強の合間にも探して読んでみるのはどうでしょうか？図書室には、様々な本が置いてあります。ミステリーを読め！とは言いませんので、ぜひ気軽に立ち寄って目に留まった本を読んでみてください。

クラス別貸出冊数(2014.4.1~10.31)

合計1816冊



分類別貸出冊数

